

平成 27 年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

| | | | | | |
|--|-----------------------------|------------------------|---------------------------|------|-------|
| 所属 | 聖路加国際大学大学院看護学 研究科看護情報学専攻 | 職名 | 大学院生（修士課程 3 年） | 助成金額 | 20 万円 |
| 氏名 | 濱田亜矢子 | 印 | hamadaayako0221@gmail.com | | |
| 研究課題（申請書に記入した内容を記入すること。） | | | | | |
| ホルモン補充療法（HRT）意思決定ガイドの開発と評価 | | | | | |
| 助成金使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。） | | | | | |
| <p>助成金の用途としては、開発する過程で行う内容適切性評価に使用するガイドのカラー印刷代と研究協力費、協力者と面接のための交通費、研究資料代で用いました。今年は、学会発表 2 つを行う予定で、その参加費、移動交通費代、普及活動におけるガイドの印刷代に充てる予定です。</p> <p>本研究では、更年期女性がホルモン補充療法（以下、HRT）選択をする際に、治療の必要性や、長所（有益性）と短所（副作用・危険性）について正しく理解し、個人の価値観を明確にした上で、納得のいく決定ができるために、その考え方を支援する目的で、日本で初めての HRT 意思決定ガイドを開発しました。ガイドの理論的枠組みには、Ottawa decision support framework（ODSF）の理論を適用し、開発プロセスには、意思決定ガイドの開発文献を体系的にレビューして得られた構造化プロセスを用いて行いました。ガイドの質の評価には、International Patients Decision aids Standards Collaboration Criteria Checklist（IPDAS：国際評価基準表）を用いました。ガイド（試案・Var1.0）の作成にあたっては、一般女性、産婦人科医、更年期外来看護師、助産師、薬剤師、意思決定の研究者、更年期の専門家、メノポーズカウンセラー、更年期に詳しいメディア関係者、女性ホルモン剤を開発している企業など、各方面からの協力を得て、多角的に意見を集め、反復的に修正を加えました。さらに、ガイドをより洗練させるための内容適切性評価は、一般女性 10 名と更年期の専門家 3 名に依頼し、その結果を詳細に分析した上で、ガイドに反映しました。段階をおって、ガイドを洗練させることで、実用的で、女性にとっても活用しやすいガイド（全 26 ページ・Var1.4）となりました。今回のガイドが開発されたことで、先行文献と比較して、以下の 3 点に変化がありました。①HRT ガイドが海外で最後に作成されたのは 2007 年であり、それ以降、初めてエビデンスのアップデートが行われた。②HRT のエビデンスについて短期と長期で分けて検討するガイドは確認できる範囲では今回が初めてである。③閉経という性差のある問題について将来を見据えて自分の暮らしと健康について考える内容にした点は、日本独自のガイドになった点です。</p> <p>この研究については、今年の更年期と加齢のヘルスケア学会（東京）、日本女性医学学会（兵庫）で発表したのち、論文として公表していく予定です。</p> <p>ガイドの活用に関しては、すでに、更年期と加齢のヘルスケア学会、クリニックの HP などから PDF 版でダウンロードして使用したり、メノポーズカウンセラーの副教材になることが決まっており、今後はさらに、そのような環境が広がるように活動するとともに、ガイドを用いた有効性への検証を行っていく予定です。</p> <p>ガイドには、「開発にあたり」というタイトルで、財団せせらぎからの助成金で作成された旨を記載させていただきました。このように有意義な研究ができたことに心より感謝致します。</p> | | | | | |
| 助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。） | | | | | |
| 発表者氏名 （著者・講演者） | 発表課題名 （著書名・演題） | 発表学術誌名 （著書発行所・講演学会） | 学術誌発行年月 （著書発行年月・講演年月） | | |
| | | | | | |